

宗教委員会では3月10日に全校で『3. 11お祈りの集い』を行う準備を進めていました。しかし、残念ながら休校になってしまい、お祈りの時間を持つことができなくなってしまいました。そこで、予定していた内容をホームページにてお知らせすることに致しました。親子で一緒にお読みいただき、今も苦しんでいる方々に新しい希望の光を届けることができますよう、ご家庭でお祈りの時間をとっていただけたら嬉しいです。

2019年度 『3. 11お祈りの集い』

9年前の3月11日に何が起こったかご存知ですか。清泉小学校では毎月11日ごろに「東日本大震災を受けて祈りをともに」のお祈りをしていますが、本日は、実際にどんなことが起こったのかその日のことを改めて確かめてみたいと思います。そして、清泉小学校の全員の心を一つにお祈りをいたしましょう。

2011年3月11日、午後2時46分、日本国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した東日本大震災が起こりました。立ってられないくらい大きなゆれが起こっただけでなく、その後、巨大な津波が日本の広い範囲をおそい、東北地方を中心に海沿いで大きな被害がでました。これほど大きな津波が襲ってくるとはだれも予想しなかったくらい大きな津波でした。避難したつもりのところでも十分ではなく、逃げ遅れて津波にのまれてしまった人も多くいました。

当時、石巻市に住んでいて被害にあわれた中学1年生の女の子の作文を紹介いたします。

「早くあがつて!!」

石巻市 中学校一年 廣瀬遥 ひろせ はるか

その日はいつも通り学校で授業をしていました。突然机が大きくゆれだし、先生の指示でみんな机の下にかくれました。机だけではなく、窓や床も大きくゆれました。2、3日前から小さな地震はあったけど、こんなに大きな地震ははじめてだったのでとても不安になりました。

だんだんと地震も少なくなってきたので、校庭に逃げました。外では放送がなっていたけど、聞こえませんでした。

雪もふりはじめて寒くなってきたので、体育館で家の人が迎えにくるのを待ちました。しばらくしてお母さんが犬を抱いてむかえにきたので、弟と三人で家に向かいました。

家の中は地震のせいでダンスやテレビが床にたくさん落ちていました。次に妹を保育園に迎えにいこうとしたら、道路は車でいっぱいになっていたので、歩いて行くことにしました。

雪が降っていて寒いので、妹の長ぐつと上着を持って、犬はバッグに入れて歩きました。歩いていく途中、私達の前の方から車のおじさんが声をかけてきました。

「津波がくるそうだから、高いところに逃げなさい」

でもまだ妹を迎えに行っていないし、自分の近くまではこないと思って、そのまま歩いて行きました。妹の保育園までもう少しの所まで来た時、中部自動車学校という所の上の方から「早くあがつて!!」「早くこつちへ来い

!!」と声がして、ハッとすると、目の前から茶色いかたまりがこつちへ向かってきていました。

お母さんが私と弟のうでをつかみ、急いで階段を駆け上りました。三階の階段をのぼった時、やっと何が起きているのか、わかりました。

下を見ると今まで歩いてきた道は茶色の海になっていて、建物のかけらと車がギシギシと音をたててぶつかっていて、道路向かいの家は一階の部分が見えなくなっていました。妹の保育園も壊れていたので、妹も流されてしまったと思います。言葉がでませんでした。お母さんも泣いていました。流されてきた人や車の中から「助けてー」とさけんでいる人もいました。その夜は、イスに座ったまま過ごしました。

次の日、自衛隊の人が助けにきて、ボートで橋の上まで連れて行ってくれました。歩いて中学校へ行く途中、亡くなった人を何人か見ました。

学校には妹が避難していました。保育園の先生が地震のあと、すぐに連れてきてくれたそうです。妹やみんなも無事でとてもうれしかったです。もう津波は来てほしくないなと思います。

森健編 (2012)
つなみ 被災地の子どもたちの作文集
完全版 文藝春秋

また、「風の電話」といものをご存知ですか。先ほど作文で紹介した石巻市と同じように地震と津波の大きな被害を受けた岩手県のおつちちょうの小高い丘の上にある電話ボックスです。白い電話ボックス内には、線のつながっていない電話と1冊のノートが置かれていて、ここへやって来る人は、電話で亡くした人に思いを伝えたり、ノートに気持ちを書いたりするそうです。この『風の電話』を作られた佐々木格さんの書かれた手記『風の電話～思いをつなぐ想像力』の一部をご紹介します。

風の電話に着工したのは、実は、震災前でした。

大切な方を亡くしたり、何かの理由で別れを経験されて、喪失感を抱えた方が、いつでも利用出来るもののように思っ、て、まず、風の電話、という詩を作りました。

人はみんな過去を持ち

現在があつて未来がある

又その時々に出会いがあり

別れがある

風の電話はそれ等の人々と話す電話です

あなたは誰と話しますか

それは言葉ですか

文字ですか

それとも表情ですか

風の電話は心で話します

静かに目を閉じ

耳を澄ましてください

風の音が又は浪の音が

或いは小鳥のさえずりが聞こえたなら

あなたの想いを伝えて下さい

想いはきつとその人に届くでしょう

(被災者が語る津波の脅威

『風の電話』思いをつなぐ想像力』より)

佐々木さんの家は高い所にあり、大きな被害を受けることはありませんでしたが、近くで家族や親せき、知り合いを亡くし、心を痛めている人が多くいらっしゃるのを目の当たりにして、この『風の電話』の完成を急がれ、2011年の4月に完成させられました。その後、新聞で紹介されたことがきっかけになり、その後、7年半で3万人近くの方が訪れ、今年は映画も作られました。

佐々木さんは「電話線のつながっていない電話だと、想像力で、つながれるのかもしれない。想像力というのは、人間だけが持っている大切な力です。」とおっしゃっています。実際に地震や津波にあわれた方々の苦労や心の痛みをわたくしたちは同じように知ることはできませんが、その方々のことを想像し、思いを寄せ、寄り添おうとする心が大切なのでしょう。

驚くほどの被害を受け、大きな苦しみや悲しみのなかにいらっしゃる方々の心を想像し、お一人おひとりに新しい希望の光が届きますように、全校の皆さまで、声をあわせて心をこめて、「東日本大震災をうけて祈りをともに」を唱えましょう。

PROTECT ALL LIFE ~ 時のしるし ~

はるか道のかなた つながる世界 ぼくらは未来へ 何を残せるだろう？
嘆き哀しんでる 人がいたなら ただ行って寄り添い 涙をこぼしたい
夢をかなえるよ この地球(ほし)で泣いている
君の声を知らせて きつと出会う奇跡 めぐりあうこの場所で

※ We protect all life We protect all life We protect all life
Protect this world 'cause we are the one
Protejamos toda vida Protejamos toda vida Protejamos toda vida
Protect all life with the power of love

ぼくも一人歩く この旅路を 何度もくじけて あきらめそうになるけれど
どんな坂道でも 震えた夜も いつかたどり着く 光がさす方へ
同じ時の中 ただ一度の人生で
君のために祈るよ ぎゅっとつないだ手を 二度と離さないで

※
Protect all life with the power of love

神さま、地震や津波にあつて、
今も苦しんでいる人々をお助けください。
家族を失くした人々、
家や仕事を失くして困っている人々、
悲しみや苦しみのために
心の力を失くしている人々に、
勇気と希望をお与えください。
そして、わたしたちも、
この人々のことをいつも思い出し、
助け合う心をもつことができますように。
イエスさまのみ名によって。アーメン。

「東日本大震災を受けて祈りをともに」
(小学校版)

9年前の3月11日に起きた東日本大震災の悲しみからまだ立ち直れていない方々のために、これからもお祈りする心を忘れずに過ごしてまいりましょう。

「風の電話」に話をしに来た方々の思いが届きますように。
私たちが悲しんでいる人にいつでも寄り添える人になれますように。